紙面 2021 年 11 月 17 日 朝日新聞

ヤフコメ 丸ごと非表示に課題

健全な投稿も規制 識者「表現の自由懸念」

誹謗中傷対策 記事単位で

ヤフーが、ヤフーニュースの記事にユーザーが意見や感想を書き込めるコメント欄（ヤフコメ）を記事単位で丸ごと非表示にする措置に乗り出した。誹謗中傷への対策を強化したという。ただ、健全な投稿も読めなくなるなど、利用者の多いサイトだけに課題も指摘されている。

ヤフーニュースのコメント欄。投稿ごとに「そう思う」「そう思わない」の数が表示される＝16日、藤原伸雄撮影

ヤフー広報室は、実際にコメント欄が非表示となった記事は100超と説明する。10月下旬に朝日新聞社などが配信した小室眞子さんと圭さんの結婚に関する複数の記事や、共同通信が同月に配信した韓国漁船転覆に関する記事など。小室さん夫妻に関して1万3千件超のコメントがついたTBSの記事も含む。

コメント欄は2007年に導入。ネットの双方性を生かし、多角的な視点を提供するのが狙いだ。ヤフーのアカウントがあれば誰でも投稿でき、IDの一部が表示される。読んだ人が「そう思う」か「そう思わない」を選ぶ機能もある。

ヤフーニュースはテレビや新聞など約650媒体が記事を提供し、月間233億ページビューを誇る。コメント欄は1日約32万件の投稿がある。

だが誹謗中傷など不適切な投稿が問題になり、ヤフーは14年から人工知能（AI）による監視を始めた。18年以降、「建設的かどうか」「読んだ人が不快に感じないか」といった基準でAIが点数化する仕組みを導入。「関連度」や「不快」の点数が特に低い投稿や、過度な批判や誹謗中傷を含むコメントは削除もしており、1日あたりの削除件数は2万件に及ぶ。

今回はより踏み込んだ。不快度を判定するAIを活用して、過度な批判や誹謗中傷、差別、暴力的などの項目に該当する「違反コメント」が一定数を超えた時点で、その記事のコメント欄を丸ごと非表示にする。

ヤフーは導入にあたり、自社が設けた有識者会議のメンバーに相談。慎重な意見も複数出たが、大筋では理解を得られたという。

メンバーで、IT分野のルールに詳しい森亮二弁護士は「個々のコメントは誹謗中傷でなくても、大量に集まると集団リンチのようになるケースもあり、丸ごと非表示にするのもやむをえない」と理解を示す。ただ、問題ないコメントも一緒に非表示にされるため、表現の自由の観点から「あくまでも例外的な緊急の対応」と指摘する。

ヤフーは、非表示と判断する詳しい基準を公表していない。有識者会議の別のメンバーで、ネットの誹謗中傷の問題に詳しい国際大学GLOCOMの山口真一准教授は「詳細を公表するとすり抜けて問題のあるコメントを投稿する人がいる可能性があり、今の対応はやむをえない。ただ、透明性の確保は重要だ。可能な範囲で非表示にいたった経緯を公表する必要がある」と指摘する。

外部の専門家はどう見るのか。東京都市大学の奥村倫弘教授（ネットメディア論）は「個別の違反コメントへの対策が結局、追いついていないのではないか。コメント欄を健全な議論の場にできなかったことから安易に閉じる措置に踏み切ったようにみえる」と話している。

（赤田康和、貞国聖子）

Media Times
メディア タイムズ

ユーザー「議論起きて快感」

コメント欄で投稿者のIDをクリックすると、過去の投稿の内容や日時、「そう思う」（いいね）の総数を見られる。数時間おきに投稿するユーザーもいる。ユーザーはどんな動機で投稿しているのか。

ヤフコメに年間150本超を投稿してきたという男性会社員(43)は「自分が議論を呼び起こしているという快感がある」と語る。自身の投稿に返信が寄せられ、議論が交わされることもあるからだ。投稿についた「いいね」の数は計2万を超えるという。

最近は小室さん夫妻に関する記事にこう投稿した。司法試験不合格のニュースについては、〈名誉職で生きて行くのだろう〉。米国出発前に夫妻が都内で住んでいた部屋の家賃は〈全部税金〉――。「名誉職」につくとか、家賃に税金が充てられたという内容はいずれも男性の推測だ。「不確かな情報ではないか」と尋ねると、言葉を濁した。

男性は、小室さん夫妻に対する他のユーザーの過熱気味の投稿については「不快だし、当事者は気の毒」。それでも「しがらみのないネットだからこそ活発に議論できる。コメント欄の非表示はやめてほしい」と注文した。

自分の投稿は「国を良くしたいという自分なりの正義ゆえ」と力をこめる。これまで自身の投稿は削除や非表示にされたことはないとも強調した。（江戸川夏樹）

● この記事・写真等は朝日新聞社の許諾を得て転載しています。（承諾番号 21-3734）
● 無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。